

トゥルー・ノース

第9期OB 竹内 亮介

7年間お世話になった小野ゼミを卒業し、2018年春より、東洋大学経営学部にて大学教員としての生活が始まりました。特に、大学院進学後の長いようで短かった5年間は、大学教員になることを目指して過ごした時間だっただけに、2018年は、自分の人生において大きな節目となる年でした。

着任後は、威厳も風格もないせいか、職員や警備員の方々から学生に間違われることもしばしば。本業の方でも、新規ゼミの基礎づくりや方向づけ、ハイペースで押し寄せて来る講義の準備、諸々の慣れない校務、それらの合間を縫って進めようとするも停滞(というより凍結…)気味の研究に、四苦八苦する日々が続きました。そんなドタバタの毎日でしたが、無事に初年度を終えられそうな段階に何とか辿り着くことができ、ひとまずは安堵の気持ちで一杯です。

その一方で、ドタバタの毎日の中、どうしても明日のこと、明後日のことだけに気を取られてしまい、長期的な視野をすっかり失ってしまっていた点は、大きな反省点だと感じています。もちろん、短期的な目標を着実にクリアしていくことはとても大事です。しかし、「おじさん・おじいさんになった時に何を達成しておきたいか?」について考えることなく、ドタバタの毎日に身を委ねていると、結局は何も達成できないまま、おじさん・おじいさんになってしまう気がしているのです。

おじさん・おじいさんになった時に達成しておきたいこと、別の言い方をすると、自分の人生において真に重要な目的は、トゥルー・ノース (true north) と呼ばれています。私はあるバンドのアルバムからこの言葉を知りましたが(画像を参照)、トゥルー・ノースとは、北極点の方角であり、船舶が針路を定める際に絶対的な基準としての役割を果たすことから、上記の意味も兼ね備えるようになったとのことです。

教員2年目以降も、ドタバタの毎日がまだまだ続いていくかもしれません。その中で、短期的な目標を着実にクリアしつつも、より重要な心構えとして、教育と研究それぞれに関するトゥルー・ノースを常に忘れることなく、良い具合におじさん・おじいさんになっていきたいと強く思っております。



Crystal Lake の4th アルバム
True North (Cube Records)